＜別紙＞

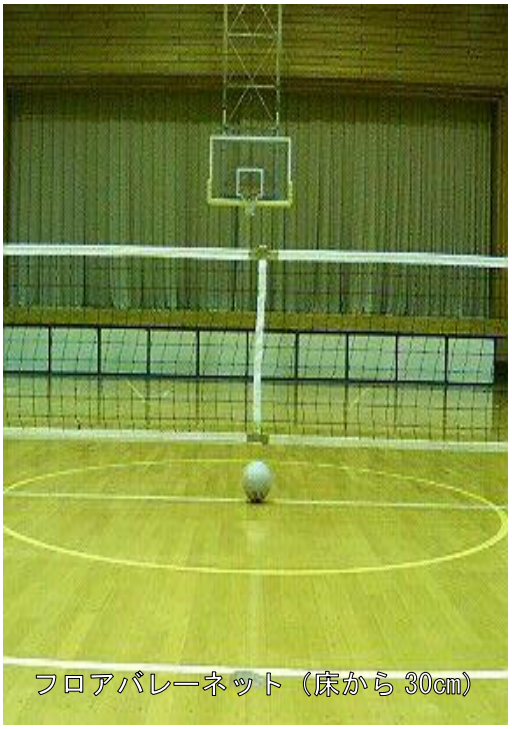
障害スポーツの普及から生涯スポーツに向けた取り組み

視覚障害をもつ本校の生徒が、障害スポーツであるフロアーバレーを卒業後生涯を通じたスポーツへとつなげていくためには、次の４点が必要であると考えた。

一つ目は、プレーをする充実感と試合で勝つ達成感を得ることである。フロアバレーを卒業後も続けていくためには、学校在籍中の部活動が充実したものである必要がある。それは、「ルールが分かる」「サーブ、レシーブ、トス、アタックといったフロアバレーの一連の動きができる」「自分の活躍の場がある」「一人一人のプレーがチームという組織で連携し機能する」「試合で勝つ経験をする」などの積み重ねによって成り立つものである。

二つ目は、地域のサークルチームとのつながりをもつことである。障害スポーツであるフロアバレーは盲学校の全国大会が開かれるほど盲学校ではメジャーな競技だが、一般的に知名度が高いスポーツとは言えない。また、マラソンやフィットネスなどの個人競技と異なり、一人では行うことができない。そのため、卒業後も競技を続けていくためには、既に活動している社会人チームとのつながりが必要不可欠である。

三つ目は、フロアバレーの普及活動である。学校在籍中は部活動という形で盲学校の体育館を利用してフロアバレーができるため問題ないが、フロアバレーを行うためには専用の器具（支柱とネット）が必要になる。しかし、地域の体育施設にはフロアバレー用の器具は設置されていない。また、フロアバレーは床から 30cm の高さに張られたネットの下をボールを通して行う競技であるため、支柱を差し込む体育館の穴の深さが重要となる。体育館の穴の深さというのは、体育施設ごとにまちまちなことも多く、専用の器具を運搬しても地域の体育施設を利用してフロアバレーが行えないこともある。仮に専用の器具を運搬して利用できたとしても、器具の運搬には自動車が必要になったりと様々な課題が考えられる。そこで、これらの問題を解決していくためには、フロアバレーを広くたくさんの人に知ってもらい、知名度を高めていく必要がある。その結果、盲学校以外の体育施設に専用の器具を設置していただき定期的な活動が確保されたり、専用の器具の運搬や大会運営などに協力していただけるボランティアの方が増えていくことに期待する。


フロアバレーネット（床から 30cm）

四つ目は、フロアバレーを通じて視覚障害者についての理解を広げることである。フロアバレーは盲学校の部活動で行われている障害スポーツという一面をもつ一方で、視覚障害があってもなくても対等に行えるスポーツという一面ももっている。そのため、本校の生徒と他校の生徒がフロアバレーを通して交流を行うことは、スポーツを通じた自然な形での視覚障害の理解を促すことができる。これらの取り組みが共生社会の実現へとつながることに期待する。

上記の４点についての取り組みについて、以下に報告する。

（１）競技力向上に向けた取り組み

①地域のサークルチームとの合同練習（毎週土曜日実施）

令和４年度・令和５年度は人事異動・新規採用でフロアバレーを知らない多くの教員が部活動顧問となった。生徒の競技力を高めていくためには教員の競技力・指導力の向上が急務と考え、部活動顧問の有志を募り、毎週土曜日に地域のサークルチームとの合同練習の機会を設定した。社会人レベルでの実践経験を積むことで、レシーブ・トス・アタックなどの基本的な動作だけでなく、細かなルールや戦略についても学ぶことができ、部活顧問の競技力・指導力の向上を図ることができた。教員の指導力が高まることにより、部活動の指導のモチベーションが向上した。

教員自身がプレーを通して様々なことを学んだことにより、見通しをもって練習メニューを組み、適切な技術指導を行えるようになったことにより、部活動の充実度を図ることができた。その結果、生徒の技術及びモチベーションが向上した。一部の生徒は、地域のサークルチームとの合同練習に参加するようになり、濃密な経験を積むとともに卒業後の活動へとつなげる機会をつくることができた。

地域のサークルチームとの合同練習で得た経験を部活動で生かし、他の生徒と共有することにより、更に部活動に対する生徒のモチベーションを向上することにつながった。その結果、以前は週末の部活動は行いたくないと言っていた生徒も前向きになり、休日練習を実施できるようになった。部活動として地域のサークルチームと練習試合を行えるようになり、チーム力強化や卒業後の活動へとつながる結果となった。

②全校教職員対象研修

令和５年度には、全国盲学校フロアバレー東京大会の主管に向けて、部活顧問以外の有志の教員を募り、年間２回教職員対象のフロアバレー研修を実施した。大会主管は部活顧問以外の教員も携わるため、研修を通して基本的なルールやコートについて学ぶことができた。また、研修を通して実際にフロアバレーを経験したことで、生徒とのやり取りも活発に行われるようになった。

（２）他校との練習試合及び大会参加

①育成リーグへの参加（年間２回）

部活動チームは、関東地区盲学校が集まる合同練習会（育成リーグ）に夏季と冬季の年間２回参加している。他校の生徒と試合経験を通して、練習の成果を発揮したり課題を持ち帰ったりと、部活動のモチベーションにつながっている。

②横浜市立盲特別支援学校との練習試合

関東地区盲学校フロアバレーボール大会に向けて、実際の試合と同じ形式で横浜市立盲特別支援学校と練習試合を行った。大会になると「公式練習」→「整列」→「ゲーム」と試合特有の流れや雰囲気にのまれて緊張してしまうことが多々あるため、試合の流れに慣れる上で有意義な時間となった。また、試合の中でプレーの方針を変えたり、作戦を実行したりという経験にもなった。

③関東地区盲学校フロアバレー大会への参加

毎年、関東地区盲学校フロアバレーボール大会（全国盲学校フロアバレーボール大会・関東予選）に参加している。令和４年度は、準優勝の成績を収めた。令和５年度は初戦敗退という結果となった。令和４年度は、地域のサークルチームとの合同練習に参加している生徒が多く、試合経験を多く積んでいたことが好成績につながったと考えられる。一方、令和５

年度は、チーム全員が揃った状態での練習機会が少なかったため、試合の中での連携がうまくいかないことが多く敗戦につながった。

令和４年度　関東地区盲学校フロアバレーボール大会（準優勝）

令和５年度　関東地区盲学校フロアバレーボール大会（試合風景）

（３）生涯スポーツとして行うための普及活動

①視覚障害スポーツの普及（八王子学園との交流）

本校は近隣の八王子学園ボランティア部と毎年交流を行っている。交流の趣旨は、同じ JR 西八王子駅を最寄り駅としている高校生として親睦を深めること、視覚障害についての理解を深めることなどである。交流の内容は、各校の学校紹介、視覚障害スポーツ体験、テーマに沿った情報交換などを行っている。視覚障害スポーツ体験では、フロアバレーやサウンドテーブルテニスを行い、視覚障害のある本校の生徒と視覚障害のない八王子学園の生徒が共にプレーを通して交流することができている。プレーが始まると、そこに障害の垣根はなく、シンプルに同年代の高校生がスポーツを楽しんでいる様子を見ることができた。

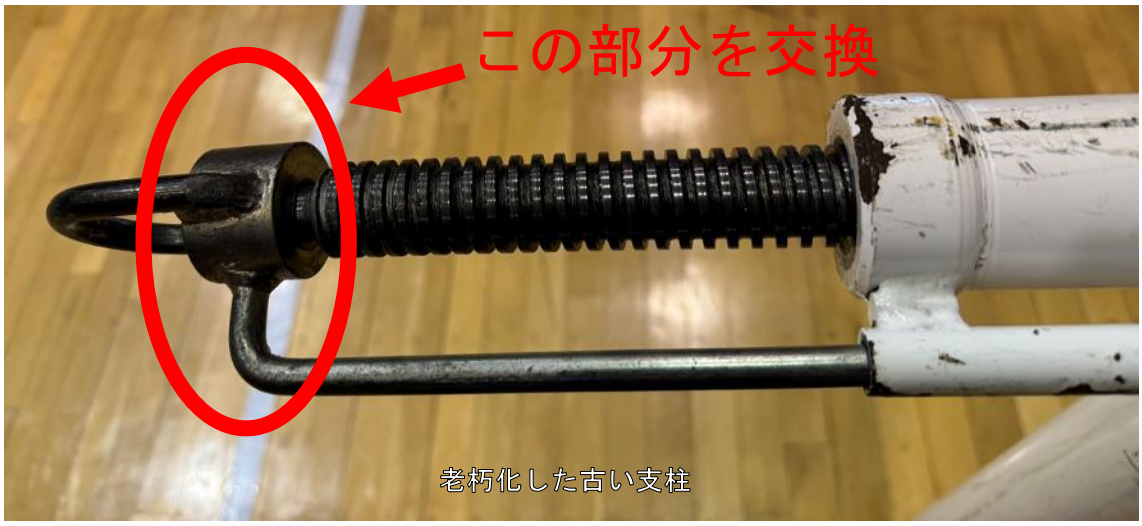
このような交流を通して、視覚障害があっても同じ高校生であり学習やスポーツを行っていること、視覚障害があっても工夫をすることでスポーツができること、健常者も一緒に楽しめることを知ってもらうよい機会となっている。

②八王子市の体育施設を利用したオレンジカップの実施と参加

本校職員の有志の取り組みとして八王子市の体育施設を利用したフロアバレーの大会「オレンジカップ」の開催がある。盲学校の生徒にとって公式の大会は、関東地区盲学校フロアバレーボール大会の年間一つのみというのが現状である。試合の機会を増やす取り組みとして、前述の育成リーグや練習試合などがあるが、オレンジカップもその目的のため、関東地区の盲学校を対象として令和２年度より実施している。

八王子市の体育施設でフロアバレーを行っていると来館されている地域の方が物珍しそうに眺めている様子を見ることができ、フロアバレーの普及にもつながっている。また、令和５年度は本校と交流を行っている八王子学園のボランティア部の協力を得ることができ、より地域と連携しながら大会を行うことができている。

オレンジカップは八王子の体育施設を借用し、本校の専用の器具を運搬し行ってきた。八王子市の体育施設は体育館によって穴の深さがまちまちであり、本校の体育館（深さ 30cm）よりも浅く、深さ 25cm や 23cm などの体育館もある。これはフロアバレーの性質上大きな課題であり、単にネットを張るとネットの高さが床上 35cm や 37cm となってしまう。このような施設でネットを張る場合は、紐を床方向に引っ張って固定するなどの工夫を要する。本校には、現在専用の器具が２セットあり、本校でネットを張った場合、一つが床上 28cm（古いもの）でもう一つが床上 32cm（新しいもの）である。部活動や体育では床上 32cm（新しいもの）を使っている。本校は校舎改築のため、令和６年度９月以降は体育館がなくなり、外部施設を利用する機会が高くなる。そうなった場合、外部施設は穴の深さが浅いため古い器具を活用していくことで、ネットを張る際の手間が軽減される。しかし、古いタイプは老朽化により、支柱のネット固定部分が外れてしまうことがある。そこで、今回助成いただいた費用を用いて、支柱の修繕を行った。



老朽化した古い支柱

本校の部活動チームは令和４年度よりオレンジカップに参加している。令和４年度は参加できる生徒が少なかったため、生徒と教員の合同チームで参加した。日頃指導者として生徒の対戦相手をしている教員にとって、自身が選手として試合に出る経験は有意義な機会となった。生徒も教員が本気になる姿を、肌で感じることができ、その後のモチベーションにつながった。この経験を受け、令和５年度は生徒チームと教員チームの２チームで参加した。前述した競技力向上の成果を試すよい機会となり、生徒チーム・教員チームともに１勝することができた。

令和５年度　オレンジカップ（生徒チームの試合風景）

（４）今後の展望

２年間の取り組みを経て、生徒及び教員の競技力、教員の指導力を高めることができてきている。他校との練習試合の機会や地域のサークルチームとの合同練習の機会も継続できているので、全国大会での勝利を目指して引き続い取り組んでいく。また、本校は校舎改築のため学校の体育館が利用できなくなるため、今まで以上に更に他校との練習機会を増やしていくことが必要となる。校外へ出ていく機会が増え、他校との交流が増えることにより、更に卒業後の生涯スポーツへとつなげていきやすくなると考える。

八王子市の体育施設を活用に関しては、大会「オレンジカップ」の開催を継続するとともに、八王子市の体育施設を利用しての練習なども実施していきたい。また、八王子学園のボランティア部の生徒とのつながりも継続し、フロアバレーを広めていけたらと考える。